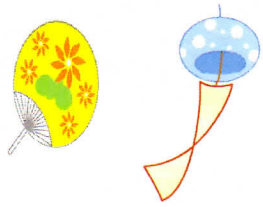
新聞への作文の掲載、続いています

2学期も継続している新聞への作文の投稿。各学年とも意欲的に投稿すると、10月も下記のように3作品が掲載されました。目標の４作品掲載には、届かなかったのですが、3年生のまきし るか さんの作品が、10月に2作品も掲載されています。

サマースクールの思い出

３年　まきし　るか



「これ、どうやってとくんだったっけ。」
と、私が言うと、みさこ先生がすぐにやりかたを教えてくれました。
おかげで、できなかったプリントをすべて終わらせることができました。
サマースクールの休けい時間は、みんなでドッチボールをしました。でも、私は手を　こっつせつしているので、みさこ先生といっしょに、つみ木で学校を作って、それを写真にとりました。みんなに見せると
「かっこいいね。」
と、いわれました。
サマースクールでがんばりノートもしようと思っていたのですが、時間がきてしまったので、できませんでした。
私は、サマースクールでおべんきょうができて、みんなにも会えたので、来て良かったと思いました。

（琉球新報　１０月８日掲載）

世界で活躍するうちなーんちゅ

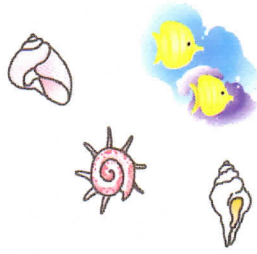
６年　當眞晴貴

昨日、国際交流研修員だった新里俊文さんの講話を聞いてわかったことがあります。
まず、一つ目は「世界のウチナーンチュ」という言葉の意味です。
百年以上前の沖縄は、現金収入がある仕事が少なく、そんな時、南米では農業をする人を求めているとのことでした。夢を求めて、南米に移民した一世の方々の苦労は、大変だったと思います。でも、今では成功をおさめ、三世から五世まで、世界各地でウチナーンチュが活躍しているのです。
二つ目は、毎年、南米からいらっしゃる世界のギノザンチュの研修生の皆さんの研修内容です。研修生の皆さんは、自分のルーツを学ぶために、日本語の勉強、職場体験、琉球舞踊などを研修するそうです。
研修の最後に松田小学校に来てくれるそうなので、仲良く交流したいと思います。
最後に、世界のどこにいても、ウチナーンチュは一つだとわかりました。

（琉球新報　１０月15掲載）

カタバルの海で自然学ぶ

３年　まきし　るか



「ミナミコメツキガニがいないよ。なんでだろう。」
と、私が言うと、
「きっと、今日は、小鳥がたくさんいるからだね。」
とお母さんが返してくれました。私も
「ああ、そうなんだ。」
と言いました。
今日は、トントンミーいがい、なにもいません。でも、新しいなまこを見つけました。ほかにも、大きなおくまでふかそうなあなも見つけました。
カタバルの海の生き物は、何千ぴきいるんだろうかと思いました。
カタバルの干がたをみんなに、すごいよって言ってもらいたいので、自由研究をがんばっています。
カタバルの海に行くたびに新しい発見がいっぱいあるので、すごいなあと思います。

（沖縄タイムス　１０月20掲載）